

FLORA KANAGAWA

Jan. 20. 2013 No.75

神奈川県植物誌調査会ニュース第 75 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会
TEL 0465-21-1515 ・ FAX 0465-23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/~kana-syoku/>
e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp



図 1. イヌマムカゴ(花) (相模原市緑区2012年8月8日 久江信雄 撮影).



図 2. イヌマムカゴ (全草) (相模原市緑区2012年8月8日 久江信雄 撮影).

イヌマムカゴの再発見

(久江信雄)

2012年8月8日、相模原市緑区内の丹沢山麓でイヌマムカゴ *Tulotis iinumae* (Makino)H.Hara を30年ぶりに発見した。

イヌマムカゴは、県内では古くは1936年に箱根で採集された標本(箱根町乙女峠1936.7.14 澤田武太郎 KPM-NA0081455)と1950年代に丹沢で採集された標本があり(足柄上郡山北町1952.7.24 出口長男ほか)、『神植目33』、『神植誌58』、『箱根目58』など

に丹沢、箱根の記録がある。『神植誌 88』のための調査では 1982 年に犬越路で採集された（足柄上郡山北町 1982.8.26 勝山輝男 KPM-NA1073018）が、その後見つからず、『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006』にはイヌマムカゴは絶滅種として掲載された。

イヌマムカゴが属するトンボソウ属 *Tulotis* はツレサギソウ属 *Platanthera* に編入されることもあるが、これらの属の中でイヌマムカゴは最も小さい花をつける。また、県内のトンボソウ属には他にトンボソウ *Tulotis ussuriensis* (Regel & Maack) H.Hara が知られているが、イヌマムカゴとは距の形態が大きく異なり、トンボソウの距は、黄緑がかかった白色で細長く垂れ下がり、長さが 5-10 mm と長く、イヌマムカゴの距は白色楕円形で長さが 1-1.5 mm と非常に短い。

発見したのは相模原市緑区内のスギ・ヒノキ人工林下で、開花していたものや蕾を持ったものなど合わせて 8 株が生育していた。茎の高さは 14 cm 位で、

図鑑などに記載されている一般的な高さ 20-35 cm と比較するとやや小振りであった。

標本：相模原市緑区 久江信雄 2012.8.8 KPM-NA0202270.

文献

勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会、2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編), 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp. 37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

勝山輝男・田村 淳・田中徳久, 2007. 維管束植物. 丹沢大山総合調査団 (編), 丹沢大山総合調査学術報告書 丹沢大山動植物目録, pp. 1-44. (財) 平岡環境科学研究所, 相模原.

秋山 守・佐宗 盈, 2001. ラン科. 神奈川県植物誌調査会 (編), 神奈川県植物誌 2001, pp. 485-525. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

ツクサ属の外来種

(勝山輝男)

1. 二宮の *Commelina erecta* L.

二宮町の山本絢子さんが、N 氏が二宮町教育委員会宛てに出したメールを持ってこられた。それによると、「二宮町の梅沢海岸に生育する“ホウライツクサ *Commelina auriculata* Blume” とされているツクサ属植物は、茎が直立していること、葉が 8 ~ 11cm と長いこと、苞の長さが 2.4 ~ 3cm と大きいこと、花が幅約 4cm と大きいこと、果実の表面に小さなイボがみられること、種子が横に長い 4 角形で大きく、白い組織がみられることから、ホウライツクサではなく、外来植物の *C. erecta* L. または *C. undulata* R. Brown (ヤハタタチツクサ) と思われる」とのことであった。N 氏は二宮町教育委員会の Web サイト「湘南にのみやバーチャル郷土館」や『神奈川県植物誌 2001』(諏訪, 2001) に出ているホウライツクサに疑問を持たれ、わざわざ遠方より来られ、二宮町教育委員会を訪ねて梅沢海岸の生育場所を確認されたとのことである。なお、「湘南にのみやバーチャル郷土館」の“ホウライツクサ”はすでに削除されている。

ヤハタタチツクサ *C. undulata* R. Brown は 2003 年に北九州市で気づかれ、中村 (2009) により帰化が報告されたもので、同定にあたってはツクサ科の専門家であるスミソニアン研究所の Robart B. Faden 博士に標本と種子が送られ、オーストラリア、インド、東南アジア、中国西南などに分布する *C. undulata* の可能性が高い旨の回答をいただいたそうだ。和名は中村(2011)による。

また、「ツクサ属の新しい外来種の発見 *C. undulata* R. Brown ヤハタタチツクサ：新和名」(<http://www.juno.dti.ne.jp/~skknari/c.undulata%20yahata-tatituyukusa.htm>)として Web 上でも紹介されている。

『Flora of North America』(Faden, 2000), 『Flora of Mesoamerica』(Hunt, 1994), 『中国植物誌』(洪, 1997), 『Flora of Ceylon』(Faden, 2000), 『Flora of West Tropical Africa』(Brenan, 1968) など手許にある植物誌で調べてみると、*C. erecta* は熱帯アフリカ、熱帯アメリカから北アメリカの温帯に広く分布し、きわめて変異が大きく、多くの亜種や変種があり、異名も多く記載されている。また、ヤハタタチツクサにあてられた *C. undulata* とは形態がきわめてよく似ている。ミズーリ植物園のホームページで公開されている植物名データベース Tropicos (<http://www.tropicos.org/>)によると、*C. undulata* を *C. erecta* に含めることもある。『Flora of North America』や『Flora of Ceylon』のツクサ科は前述の Faden 博士が執筆されている。

二宮町の“ホウライツクサ”は『神奈川県植物誌 2001』(諏訪, 2001) で逸出として記録されたもので、県内では二宮で採集されただけである。その標本は平塚市博物館にあり、生命の星・地球博物館にはない。そこで、山本さんをお願いして二宮町の“ホウライツクサ”の標本を新たに作成していただいた (KPM-NA0210825)。

苞の基部が合着していること、葉鞘の上部が耳状に広がることからホウライツクサとされたものであるが、当館の標本庫にある南西諸島産のホウライツクサ

(KPM-NA0069497, KPM-NA0071319) とは, N 氏が指摘した相違点の他にも, 葉に柔毛が密生し, 苞が強く鎌形になるなど, 明らかに異なるものであった.

次にヤハタチツユクサ *C. undulata* の記述や写真と比べてみたが, 葉が広線形~狭披針形で細長いこと, 苞が強く鎌形であること, 花が青色できわめて大きく幅 4cm に達することが異なるように思われた. しかし, 『Flora of North America』(Faden, 2000) の *C. erecta* の記述, 『中国植物志』(洪, 1997) の *C. undulata* の記述, 『Flora of Ceylon』(Faden, 2000) の *C. kurzii* C.B. Clarke (*C. undulata* の Synonym とされる) の記述を比較しても, これらの相違点が両種の区別点になるのかどうか読み取ることはできなかった.

二宮町の植物をどう扱ったものかと思案していたとき, 北海道の K 氏よりネット上のブログやホームページに「神奈川のホウライツユクサ」として出てくるものはホウライツユクサではなく, *C. erecta* の可能性が高い旨のメールをいただいた. K 氏は東京在住の知人から二宮の“ホウライツユクサ”の種子を入手し, 栽培して開花させて確認したそうだ. 開花後の観察記録と写真がブログ「北国のスプリングエフェメラル」に「謎解き・神奈川のホウライツユクサ①~⑦ (<http://blogs.yahoo.co.jp/ramukomjp/34689984.html>)」として報告されている. また, 2006 年頃に藤沢市内で撮影された *C. erecta* と思われる画像もインターネットで検索すると出てくるとのことである.

結局, 二宮の“ホウライツユクサ”はヤハタチツユクサによく似ているがビタリとは一致しないが, 広義の *C. erecta* に含まれることは確かなので, 取り敢えず, 和名はつけずに *C. erecta* L. として整理しておくことにした.

この機会に, 生命の星・地球博物館のツユクサ属標本を見直してみたところ, オオボウシバナ *C. communis* L. var. *hortensis* Makino の束のなかから, 1957 年に二宮町で採集された *C. erecta* の標本 (KPM-NA0000714) が出てきた. 二宮町には少なくとも 1957 年から *C. erecta* が帰化していたことになる.

また, K 氏によると, 平塚市博物館に収められている二宮町産のホウライツユクサの標本は K 氏の知人が確認し, ホウライツユクサであったとのことである. 現在, 二宮町では *C. erecta* はあるが, ホウライツユクサは行方不明である. また, 平塚市博物館のホウライツユクサ, ツユクサ, ヒメオニツユクサ, マルバツユクサ, シマツユクサの標本の束を調べたが, 1981 ~ 1999 年に二宮町で採集された *C. erecta* の標本 (HCM-31338, HCM-31287, HCM-71447-71450, HCM-85377) は出てきたが, ホウライツユクサと思われる標本は見出すことができなかった. これらの標本の産地の二宮町川西

と梅沢海岸は隣接しており, 現地での記録の誤差によるもので, 同じ場所で採集されたものと考えられる.

2. カロライナツユクサ

前述の N 氏のホームページに「*Commelina caroliniana* Walter カロライナツユクサ (新和名) 2012.7.2」(<http://www.juno.dti.ne.jp/~skknari/C.%20caroliniana%202012..html>) がアップされていた. カロライナツユクサ *C. caroliniana* Walter はインド原産で北アメリカに帰化した植物に基づいて記載されたもので, 苞が細長く, 小型の花をつけ, 3 個の花弁が青色をしている点でシマツユクサ *C. diffusa* Burm. f. に似ている. ホームページの記事や中村 (2012) によると, 2010 ~ 2011 年にかけて大分県, 熊本県, 佐賀県, 愛知県などの帰化が確認され, 2012 年には岡山県や高知県でも確認された. シマツユクサが伊勢原市, 茅ヶ崎市, 藤沢市, 寒川町に帰化していることを Flora Kanagawa, No. 67 (勝山, 2008) で報告したが, この中にカロライナツユクサが含まれていないか気になったので調べてみた.

生命の星・地球博物館の標本庫には前述の 3 市 1 町のものほかに, その後, 小田原市で採集されたものを含めて 5 点の県内産シマツユクサの標本があった. このうち, 茅ヶ崎市 (KPM-NA0133019), 藤沢市 (KPM-NA0133021), 寒川町 (KPM-NA0133020), 小田原市 (KPM-NA0148071) の 4 点のシマツユクサの標本は, 苞の先が鎌形に曲がり, 苞内の直立する花序枝 (主軸にあたる) は発達して 1 ~ 3 花をつけ, 種子には網状紋が認められ, 上記 HP の記事や Faden (1993), 『Flora of North America』(Faden, 2000), 『Flora of Ceylon』(Faden, 2000), 『Flora of Bhutan』(Noltie, 1994), 『中国植物志』(洪, 1997) などの記述や検索表から, シマツユクサ *C. diffusa* Burm. f. に間違いないと判断された.

一方, 伊勢原市のもの (KPM-NA0133017) は苞の先がまっすぐに長く伸び, 苞内の直立する花序枝は退化して花をつけず (稀に 1 花をつける), 種子の表面は平滑で, カロライナツユクサ *C. caroliniana* Walter であった. Flora Kanagawa, No.67 (勝山, 2008) に示したシマツユクサの写真も伊勢原市のものなので, カロライナツユクサのものである. この写真の苞はたまたま直立する花序枝に 1 花をつけている.

神奈川県産のツユクサ属は『神奈川県植物誌 2001』(諏訪, 2001) ではツユクサ, マルバツユクサ, ホウライツユクサの 3 種が記録されていたが, これにシマツユクサ, カロライナツユクサ, *C. erecta* の 3 種が加わったことになる. 以下にこれらの 3 種を含めた検索表を用意した.

- A. 苞はへりが合着して漏斗状
 B. 葉は卵形または広卵形で鈍頭，葉は幅 2～4cm，明らかな葉柄があり，葉鞘上端は耳状に広がらない
 マルバツユクサ *C. benghalensis*
- B. 葉は披針形または狭披針形で鋭頭，葉は幅 1～2cm，葉柄は不明瞭，葉鞘上端が耳状に広がる
 C. 1 年草で根茎はない，葉は両面ともほぼ無毛，苞は鎌形に曲がらず，長さ 1～1.5cm，花は幅約 2cm，
 2 本の O 字型の雄しべは湾曲しない，種子に白色翼状の組織はない..... ホウライツユクサ *C. auriculata*
 C. 多年草で硬い根茎がある，葉は柔毛が密生，苞は顕著な鎌形で長さ 2～3cm，花は幅約 4cm，
 2 本の O 字型の雄しべは内側に湾曲，種子は片側に白色翼状の組織がある..... *C. erecta*
- A. 苞はへりが合着せず，広げると円心形～狭卵形
 B. 苞は先が伸びず広げると円心形，花は幅 2cm 以上，花弁は 2 個が青色で 1 個が白色
 ツユクサ *C. communis*
- B. 苞は先が長く伸びて広げると狭卵形，花は小さく幅 1.5cm 以下，花弁は 3 個とも青色
 C. 苞の先は鎌形に曲がり，苞内の直立する花序枝は発達し 1～3 花をつけ，種子の表面には網目紋がある..... シマツユクサ *C. diffusa*
 C. 苞の先は鎌形に曲がらず，苞内の直立する花序枝は退化して花をつけないか，稀に 1 花をつけ，
 種子の表面は平滑..... カロライナツユクサ *C. caroliniana*

標本

- ホウライツユクサ *C. auriculata* : 沖縄県 (宮古島)
 平良市平港付近 M.Furuse No.4579 1973.11.19
 KPM-NA0071319; 沖縄県 (石垣島) おもと
 岳 南 麓 M.Furuse No.1508 1972.10.15 KPM-
 NA0069497.
- カロライナツユクサ *C. caroliniana* : 神奈川県
 伊勢原市上平間 酒井道子 2008.9.24 KPM-
 NA0133017; 平塚市城所 恒川礼子 2010.10.12
 HCM-97721.
- シマツユクサ *C. diffusa* : 神奈川県茅ヶ崎市行谷
 広町 三輪徳子 2008.10.19 KPM-NA0133019; 神
 奈川県高座郡寒川町大蔵 三輪徳子 2008.10.25
 KPM-NA0133020; 神奈川県藤沢市打戻 三輪徳
 子 2008.10.25 KPM-NA0133021; 神奈川県小田原
 市新屋 渡辺達雄 2009.8.20 KPM-NA0148071.
- C. erecta* : 神奈川県二宮 西尾和子 1957.5.22
 KPM-NA0000714; 二宮町川西 守矢淳一
 1981.8.30 HCM-FKS-31338; 二宮町川西 守矢淳
 一 1983.7.13 HCM-FKS-3128; 二宮町川西 松本
 丈人 1996.8.20 HCM-71448; 二宮町川西 松本丈
 人 1996.8.21 HCM-71450; 二宮町川西 志沢光郎
 1996.8.28, HCM-71449; 二宮町川西 志沢光郎・
 山本絢子 1996.8.28 HCM-71447; 二宮町川西 山
 本絢子 1999.8.12 HCM-85377; 二宮町二宮梅沢海
 岸 山本絢子 2012.8.17 KPM-NA0210825.

文献

- Brenan, J. P. M., 1968. Commelinaceae. Hepper, F.
 N., ed., Flora of West Tropical Africa, second ed.,
 Vol. 3 (1). pp.22-50. Crown Agents for Oversea

Governments and Administrations, London.

- Faden, R. B., 1993. The misconstrued and rare
 species of *Commelina* (Commelinaceae) in the
 eastern United States. *Ann. Missouri Bot. Gard.*
 80: 208-218.
- Faden, R. B., 2000. Commelinaceae R. Brown・
 Spiderwort Family. Flora of North America
 Editorial Committee, ed., Flora of North America
 North Mexico, Vol. 22. pp.170-197. Oxford
 University Press, New York Oxford.
- Faden, R. B., 2000. Commelinaceae. Dassanayake,
 M. D. & W. D. Clayton ed., A Revised Handbook
 to the Flora of Ceylon, Vol. 14. pp.116-201. A.
 A. Balkema, Rotterdam.
- 洪 徳元, 1997. 鴨跖草科. 中国科学院中国植物志
 編纂委員会編, 中国植物志, 13 卷 (3). pp.69-
 133. 科学出版社, 北京.
- Hunt, D. R., 1994. *Commelina* L.. Davidse, G., M.
 Sousa S. & A. O. Chater ed., Flora Mesoamericana,
 Vol. 6. pp.171-173. Universidad Nacional
 Autonoma de Mexico Instituto de Biologia,
 Mexico, D. F.
- 勝山輝男, 2008. 神奈川県産のシマツユクサが急増
 中. *Flora Kanagawa*, (67): 822-823.
- 中村 功, 2009. ツユクサ科の新しい外来植物の発見.
 わたしたちの自然史, (109): 8-11.
- 中村 功, 2011. 外来ツユクサ (*Commelina undulata*
 R. Brown) に新和名ヤハタタチツユクサ. わたし
 たちの自然史, (115): 11.
- 中村 功, 2012. 日本未記録種 *Commelina*



図1. 二宮町の *Commelina erecta* (KPM-NA0210825) . A: 植物体の一部 B: 苞と花 C: 種子 (左の2個) と果皮に包まれた種子 (右の1個)



図2. カロライナツユクサ *Commelina caroliniana* (KPM-NA0133017) . A: 苞と花 B: 種子 (中央の4個) と裂開した果皮 (上側の2個) .

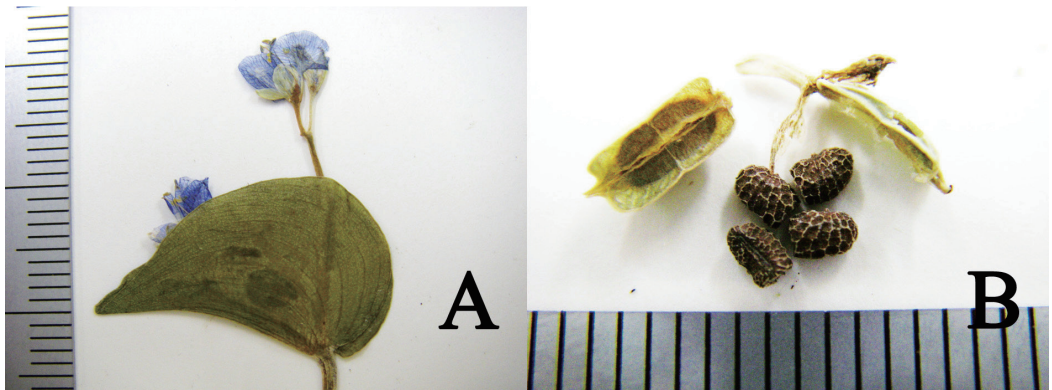


図3. シマツユクサ *Commelina diffusa* (KPM-NA0133019) . A: 苞と花 B: 種子 (中央の4個) と裂開した果皮 (左右の2個) .

caroliniana Walter カロライナツユクサ (新和名) .
わたしたちの自然史, (120): 11-15.

Noltie, H. J., 1994. Flora of Bhutan, Vol. 3(1). 455pp.
Royal Botanic Garden Edinburgh, Edinburgh.

諏訪哲夫, 2001. ツユクサ科 Commelinaceae. 神奈
川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2001.
pp.248-252. 神奈川県立生命の星・地球博物館,
小田原.

クロマツに着生したマツグミ

(大西 亘・村瀬ますみ)

開成町および小田原市の酒匂川右岸堤防上のクロ
マツ並木にマツグミ *Taxillus kaempferi* (DC.) Danser
を発見した。マツグミはモミ、ツガ、マツなどのマツ
科針葉樹に半寄生するヤドリギ科の植物で、県内では、
丹沢のモミ混交林内を中心に記録があり (浜口,
2001), 平野部では、大和市の神社跡地に残された
モミに着生していた記録がある (山本, 1989)。ただ、
これまで県内でクロマツに着生した例は報告がなかつた。
今回着生が見られたクロマツは、酒匂川右岸堤防
の裏法面上に植栽された、いずれも直径 50cm 以上
の大径木であった。開成町の足柄大橋から小田
原市の尊徳橋までの間を徒歩で調査したところ、うち
5本のクロマツに、計9株のマツグミが確認された。
クロマツの大径木は、酒匂川堤防上には開成町のほ
か、対岸の松田町、大井町、下流の小田原市にも
植栽が見られ、また海岸沿いを中心に県内各地にも
見られることから、今後注意してクロマツを観察すると
新たなマツグミの分布を発見できるかもしれない。な
お今回の報告は、2012年5月13日に著者の一人
である村瀬が、車窓から偶然目にした見事なマツ並
木にひかれ、途中下車して訪れた際に、マツグミの
着生を発見したことがきっかけとなった。後日連絡を
受けた大西が、2012年5月16日に追加の分布を、
2012年7月26日に一部の株での開花を、それぞれ
確認した。



図1. マツグミ (開成町吉田島 2012年7月26日 大西
亘撮影) .

標本: 開成町吉田島 村瀬ますみ 2012.5.13 KPM-
NA0201715.

文献

浜口哲一, 2001. ヤドリギ科. 神奈川県植物誌調査
会 (編), 神奈川県植物誌 2001, pp.588. 神奈
川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

山本 明, 1989. 大和市のマツグミ. Flora Kanagawa,
(26): 234.

アメリカオニアザミとマンテマを栄区で 記録

(林 辰雄)

『神奈川県植物誌 2001』には、表記の2種の記録
が栄区にないので、報告します。

1. アメリカオニアザミ *Cirsium vulgare* (Savi) Ten.

場所は栄警察署の前を通る環状4号線の栄図書館
入口の交差点から、栄区役所入口の交差点までの中
央分離帯で、約200mほどの区間。分離帯は幅約
2mで、クルメツツジが植え込まれているが、隙間も見
えないほどセイタカアワダチソウ、ハルジオン、ヒメジョ
オン、ヒメムカシヨモギ、ヨモギ、フキ、それにヒルガ
オなどが密生しており、その中に、アメリカオニアザミ
が30株ほど、不規則な間隔をあけて生育していた。

気が付いたのは2012年5月19日、高さ70~110cm
くらいで、蕾が目立ち、花は筒状花が伸び始めたもの
が少し見られた。茎につくひれや葉、総苞にもすごい



図1. 分離帯に生育するアメリカオニアザミ (横浜市栄区
公田町 2012年5月19日 林 辰雄撮影) .

棘があり、素手では全く触れないが、人の歩く両側の歩道の植え込みには、たった1株しか見られなかった。

2. マンテマ *Silene gallica* L. var. *quinquevulnera* (L.) W.D.J.Koch

場所は笠間5丁目の笠間交差点近く、笠間交番から少し鎌倉女子大方向に進んだところ。ここは現在、道路拡張予定地でフェンスが張ってあって、中には入れないが、1m四方ほどの中にマンテマがまとまって咲いていた。辺りにはハルジオン、アレチギシギシ、ヨモギ、ヘラオオバコ、ネズミホソムギ、シロツメクサなどが生えていた。マンテマには、開花前には気付かなかったが、2012年5月10日頃、開花して気付いた。小さい花ながら、花弁が赤いので開花すればよく目立つ。

なお、この付近には神奈川中央交通の平島車庫があって、わずかに土のある部分には、帰化植物が多く見られて興味深い。シロノヂシャ、ハナヤエムグラ、マンテマ、オオキンケイギク、ヒメクマツヅラ、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、アレチマツヨイグサ、コマツヨイグサ、ブタナ、イヌムギ、シマスズメノヒエ、ヒメコバンソウなどで、これらの種子がバスのタイヤに付着して運ばれ、発芽・生育したのではないかと想像している。

※編集者追記：アメリカオニアザミは、2009年8月21日、横浜市栄区小菅ヶ谷北で野津信子・長谷川光子により採集されている（KPM-NA0163758）。

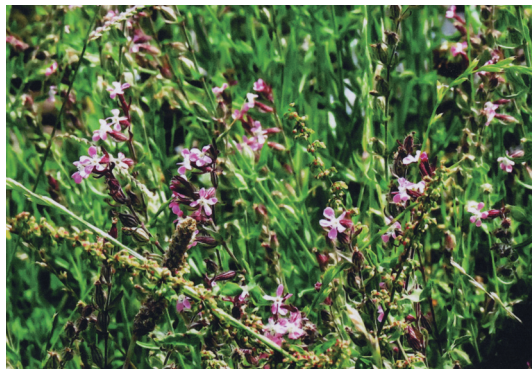


図2. マンテマ（横浜市栄区笠間 2012年5月24日 林辰雄撮影）。

サガミランの報告

（奥津 均）

2012年7月22日に、グループで小田原市の辻村植物公園～毘沙門天～風祭のコースを歩きました。公園から毘沙門天への指定されたコースをたどったところ、6月19日に来襲した台風の影響で途中が通行できず、それに沿って別の道を歩いたところ、腐

生ランを発見しました。

腐生ランの発見地は、常緑広葉樹林内の薄暗い場所で、花茎25cm位の株が2本あり、上部に白花を3～4ヶ着け、花茎と鞘状葉が緑色であったので、マヤランの白花品のサガミラン *Cymbidium macrorhizon* Lindl. form. *aberrans* Hid.Takah. & Ohba と同定し、報告します。



図1. サガミラン（小田原市辻村植物公園 2012年7月22日 奥津 均撮影）。

環境省第4次レッドリストの神奈川県関係の報告

（勝山輝男）

第4次レッドリスト改訂の神奈川県分の調査では調査会会員の皆さんに大変お世話になりました。神奈川県分のデータは2011年の暮れに提出しました。植物分類学会の絶滅危惧植物検討委員会で、全都道府県のデータを整理し、絶滅確率のシミュレーションを行い、その結果をもとにして専門家による判定が行われ、2012年8月末に環境省より第4次レッドリストとして公表されました。新しいリストは環境省のHP (<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>) で見ることができます。今回、現地調査を行い、個体数や減少率データを更新したものは、第3次レッドリストのCR種、その後に記載された種、当時情報不足で評価できなかった種、シカの影響が甚大でRDB種化の可能性があるので委員会で選定した

種で、その他の種については、データ更新を行わず、判定の見直しのみが行われました。

第4次レッドリストのランクごとに神奈川県に分布またはかつて分布していたものをあげ、現地調査対象種は*印、そのうちランクアップした種は↑印、ランクダウンした種は↓印、新規調査対象種には○印を付し、()内に神奈川 RDB (2006) のランクを示しました。

より狭い地域を対象とした県レベルの RDB の方が全国を対象にした国レベルの RDB よりも厳しく評価されるのが普通です。しかし、フォッサマグナ要素植物のように、狭い範囲に多産し、周辺では個体数が急に少なくなる場合には評価が逆転する例が見られます。例えば、サンショウバラやマツノハマシロなど、県内では健在種に評価されますが、国レベルの RDB では絶滅危惧種に評価されています。国レベルの評価では 2 万 5 千分の 1 地形図単位のメッシュを使い、個体数と減少率をもとに絶滅確率をシミュレーションするために、山梨県や静岡県などの周辺メッシュでの少ない個体数や高い減少率が過大に影響してしまうと考えられます。今回の第4次リストではハコネシロカネソウとタテヤマギクの 2 種は準絶滅危惧種にランクダウンし、この矛盾が解消されました。神奈川 RDB (2006) で健在種と評価されたもので、国 RDB で絶滅危惧種と評価されたものなどをどう扱うか、神奈川 RDB の次回の改訂での課題の一つです。

1. 絶滅種 (EX)

サガミメドハギ (EX)

2. 絶滅危惧 I A 類 (CR)

* ヤマドリトラノオ (CR) ・ * ミドリアカザ (CR) ・ * ↑ ハナハタザオ (EX) ・ * マツバニンジン (EX) ・ * ヤマタバコ (CR) ・ * ガシヤモク (EX) ・ * キソエビネ (CR) ・ * シロテンマ (CR, 今夏は 2ヶ所から発生の報告をいただきましたが、それは反映されていません) ・ * オオバナオオヤマサギソウ (CR)。

3. 絶滅危惧 I B 類 (EN)

ヒモラン (EX) ・ * ↑ アカウキクサ (CR) ・ * ↑ オオアカウキクサ (VU) ・ タキミシダ (CR) ・ * ↓ ヤシヤイノデ (CR; 神奈川では危機的な状況ですが、他産地から以前より良好な報告が出されランクダウンしました) ・ シムライノデ (EX) ・ アゼオトギリ (EX) ・ ヤブザクラ (VU) ・ ハマビシ (EX) ・ ヒナノキンチャク (CR) ・ * ムラサキ (CR) ・ ヒイラギソウ (EX) ・ * ヤマホオズキ (VU) ・ イズコゴメグサ (CR) ・ ユキヨモギ (EN) ・ * ↑ アキノハハコグサ (CR) ・ * ↓ ムサシモ (EX) ・ イズアサツキ (CR) ・ サガミジョウロウホトトギス (EN) ・ カヤツリスゲ (未判定; 2007

年に SAG (旧相模湖町) で路傍に偶発、富士五湖に安定して見られ、相模川や富士山周辺に稀に散発的に採集されることがあります) ・ サガミランモドキ (VU) ・ ナヨテンマ (未判定; Flora Kanagawa No.70 で 1992 年に横浜市内で撮影された写真が紹介されています) ・ ダイサギソウ (EX) ・ * ↑ ムカゴソウ (CR) ・ ギボウシラン (EX) ・ ○ タンザワサカネラン (未判定; 2008 年に新種記載され、これまでに丹沢のほか茨城県の産地から報告されています) ・ フジチドリ (EX) ・ ムカゴサイシン (EX; その後、小田原市内で新産地が発見されています) ・ イヌマムカゴ (EX; 最近、相模原市内で新産地が発見され、本号の Flora Kanagawa No.75 で報告されています) ・ キバナノシヨウキラン (健在; 丹沢では比較的個体数多く前回の神奈川 RDB では健在とされました)。

4. 絶滅危惧 II 類 (VU)

スギラン (VU) ・ イヌカタヒバ (逸出扱い) ・ ヒメハナワラビ (EX) ・ デンジソウ (VU) ・ * ↑ サンショウモ (CR) ・ ヒメウラジロ (EN) ・ オニイノデ (健在; 神奈川県では産地が多く、健在種とされています) ・ トキホコリ (EN) ・ ミヤマツチトリモチ (EN) ・ ヒメタデ (EN) ・ ヌカボタデ (EX) ・ コギシギシ (健在; 前回の神奈川 RDB では健在とされましたが、類似の帰化品が含まれている可能性があります) ・ オキナグサ (CR) ・ コキツネノボタン (CR) ・ * ヒキノカサ (EX) ・ イワカラマツ (CR) ・ * ↑ ノカラマツ (EX) ・ ヒメコウホネ (EX) ・ タマノカンアオイ (VU) ・ ベニバナヤマシャクヤク (CR) ・ マツノハマシロ (健在; 神奈川県では丹沢のブナ樹幹に比較的多産します) ・ ウメウツギ (VU) ・ チョウセンキンミズヒキ (VU; ハコネキンミズヒキ (Flora Kanagawa No.69 参照) を含みます) ・ ヒロハノカワラサイコ (EN) ・ サンショウバラ (健在) ・ ○ サナギイチゴ (CR) ・ * ↑ イヌハギ (EN) ・ サクラガンピ (VU) ・ ハコネグミ (VU) ・ ミズマツバ (VU) ・ ミズキカシグサ (EX) ・ トダイアカバナ (CR) ・ ミズキンバ (EN) ・ * ミシマサイコ (CR) ・ ムラサキツリガネツツジ (EN) ・ ハコネコメツツジ (VU) ・ ノジトラノオ (CR) ・ コイワザクラ (VU) ・ イヌセンブリ (EN) ・ * フナバラソウ (CR) ・ ヤブムグラ (VU) ・ ハナムグラ (EX) ・ カイジンドウ (EX) ・ * ↓ ツルカコソウ (EX) ・ * キセウタ (EN) ・ * アオホオズキ (VU) ・ * ゴマクサ (EX) ・ ゴマノハグサ (CR) ・ イヌノフグリ (EN) ・ ハマウツボ (EX) ・ ○ ソナレマツムシソウ (EN) … アシタカマツムシソウを含みます) ・ ツルギキョウ (CR) ・ * バアソブ (CR) ・ * キキョウ (CR) ・ * ↓ カワラノギク (CR) ・ * イズハハコ (EX) ・ ハマサワヒヨドリ (CR) ・ * タカサゴソウ (CR) ・ * イズカニ

コウモリ (EN)・*ヒメヒゴタイ (CR)・コウリンカ (CR)・
オナモミ (EN)・↓トウゴクヘラオモダカ (CR)・
マルバオモダカ (EX)・スプタ (EX)・ミズオオバコ
(EN)・ササエビモ (VU)・イトクズモ (EX)・タチ
アマモ (EN)・サガミトリゲモ (VU)・トリゲモ (CR)・
*↓イトイバラモ (CR)・ホンゴウソウ (EX; 神奈川県
RDB 発表後に新産地が発見されました)・*ミズタ
カモジ (健在; 県内では足柄平野などに多産します)・
ヒンジモ (EX)・*ヒメミクリ (EN)・ジョウロウスゲ
(CR)・カンエンガヤツリ (EN)・*↑スジヌマハリ
イ (EX)・コツブヌマハリイ (CR)・ハタバカンガレ
イ (CR)・キンセイラン (未判定; 相模原市で県内
分布が確認されました。Flora Kanagawa No.73)・ナ
ツエビネ (CR)・ユウシュンラン (EN)・キンラン (VU)・
クゲヌマラン (VU)・ヒメノヤガラ (VU)・マヤラン (健
在)・ナギラン (CR)・クマガイソウ (EN)・アツモリ
ソウ (EX)・ハコネラン (VU)・ハマカキラン (VU)・
マツラン (CR)・*ミズトンボ (EN)・オオハクウンラ
ン (CR)・フガクズムシソウ (CR)・フウラン (EN)・
ヒメムヨウラン (EX)・サカナラン (EN)・ヒナチドリ
(CR)・ウチョウラン (CR)。

5. 準絶滅危惧種 (NT)

ミズニラ (EN)・マツバラ (EN)・ヤエガワカン
バ (CR)・ホソバイスタデ (EX)・ナガバノウナギツ
カミ (EX)・ニッケイ (逸出扱い)・カザグルマ (EN)・
*↓ハコネシロカネソウ (NT)・ミスミソウ (健在)・
ズソウカンアオイ (健在)・オトメアオイ (健在)・ヤ
マジャクヤク (健在)・ハコネオトギリ (健在)・イシ
モチソウ (EX)・コイヌガラシ (健在)・ツメレンゲ (CR)・
アズマツメクサ (CR)・ムカゴネコノメ (健在)・タコ
ノアシ (健在)・ヤシヤビシヤク (VU)・ノウルシ (EX)・
ウスゲチョウジタデ (健在)・タチモ (EX)・エキサイ
ゼリ (EX)・ムラサキセンブリ (CR)・ガガバタ (EX)・
アサザ (EX)・チョウジソウ (EX)・クサタチバナ (EX)・
*スズサイコ (VU)・タチキランソウ (健在)・○タニジャ
コウソウ (健在)・*マネキグサ (EN)・ヒメハッカ (EX)・
ヤマジソ (CR)・ミズネコノオ (EX)・ミゾコウジュ (健
在)・カワジシャ (健在)・イスタヌキモ (CR)・タヌ
キモ (CR)・ムラサキミミカキグサ (CR)・↓タテヤ
マギク (健在)・*↓ウラギク (VU)・キクタニギク (健
在)・フジバカマ (EX)・カワラニガナ (EN)・アギ
ナシ (EX)・ウミヒルモ (EN)・シバナ (EX)・イト
モ (VU)・リュウノヒゲモ (EN)・カワツルモ (EX)・
エビアマモ (CR)・イトトリゲモ (CR)・ミズアオイ (EX)・
ヒメシャガ (VU)・カキツバタ (EX)・ヒメコヌカグサ
(CR)・○ヒナザサ (EX)・ミクリ (VU)・ヤマトミクリ
(CR)・ナガエミクリ (VU)・↓イトテンツキ (CR)・

オオクグ (EX)・*↓ヤリテンツキ (CR)・シラン (EN)・
ムギラン (CR)・エビネ (VU)・コアツモリソウ (EN)・
タシロラン (健在)・カモネラン (CR)・トキソウ (CR)・
カゲロウラン (VU)。

6. 現地調査を行った結果、ランク外になったもの

チャボイノデ (健在), ハコネシケチシダ (健在),
マメグミ (健在), クサヤツデ (EX)。

植物誌調査の便利帳

～第1回 採集記録はどうつける?～

(大西 亘)

次の植物誌に向け、新たに参加された会員の方々も増えつつあります。ベテランの会員のみなさまには、今更の内容かもしれませんが、植物誌調査の便利帳を、今回から連載させていただきたいと思えます。

植物誌調査では、植物が生育していた証拠を残すため、植物を採集し、押し葉標本とすることがあります。このとき、採集した植物とともに重要なのが「採集記録」です。押し葉がないことには実物の証拠になりませんが、「採集記録」の無い押し葉は、標本とは呼べません。

「採集記録」として最低限必要なのは、『いつ、どこで、誰が、採集したのか?』ということです。また、これらに加え、採集時に観察された「生育状況」も書かれていると、なお良いでしょう。一方、採集した植物の名前、すなわち「和名」や「学名」は、あった方が整理しやすいですが、後から他の人が見ても調べられるので、ひとまず分かる範囲で書いておいても構いません。採集した人にしか分からない情報、『いつ、どこで、誰が、採集したのか?』については絶対に記録を忘れないでください。後の世の人が同じものを探しに行ってみることができる情報、のように考えるとよいかと思います。

では、「採集記録」の各項目について、具体的な書き方を見ていきましょう。

●「いつ」

採集した日付の年月日(西暦)を書きます。どの年、どの時期に標本のような状態(葉、花、果実)だったのかを知るために必要です。「年」について、元号を利用したり、下2桁だけの表記をしたり、あるいは「年」表記を省略すると、混乱の元になるので避けましょう。

●「どこで」

採集した場所を示すものです。一番肝心なので、しっかり書きましょう。

書くべき内容は、「住所」「緯度経度」「採集地の

詳細)「地域メッシュコード」「調査区(調査メッシュ)」「標高」などが挙げられます。

●住所

採集地を町名まで、いわゆる住所表記で記述します。市販の都市地図や道路地図を使っても調べられますし、インターネットの地図を利用しても調べられます。私がよく利用するのは、マピオン <http://www.mapion.co.jp/> というインターネットの地図サービスです。マピオンでは、町名が色分けされていて、見やすいです。

【マピオンを利用した、住所表記の調べ方】

- 1) 「マピオン」の地図検索画面を使って、住所表記を知りたい場所を地図上に表示させます(図1)。
- 2) 知りたい場所付近の地図が表示されたら、緯度経度を知りたい正確な場所(採集地)にマウスの矢印を移動させ、ダブルクリックをするとその場所が地図の中心となります(画面中央の赤い十字が地図の中心)。このとき地図の中心の住所表記は画面左上と右下に表示されています。
- 3) マピオンでは地図の中心の緯度経度(度(小数点表記))やおおよその標高も知ることができます。

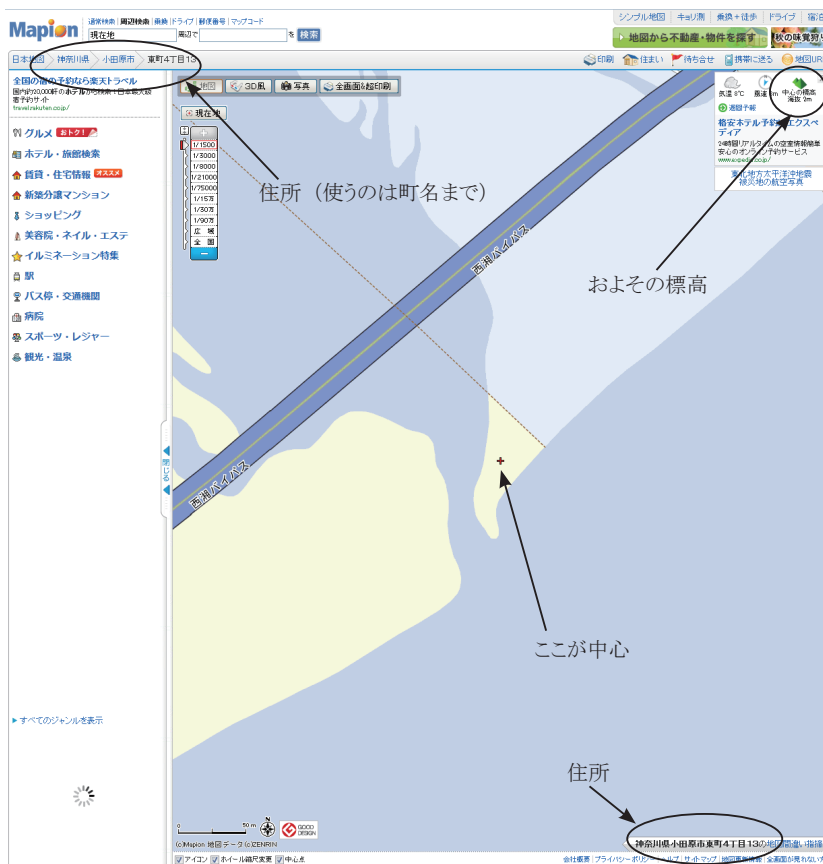


図1.「マピオン」の画面表示例。

○採集地の詳細

「○○公園の管理事務所北側」、「××池の西側」、「△△山、◆◆登山口から約2キロの地点」など、住所表記以外の、後で確認する際にあった方が分かりやすい採集場所の詳細情報を書きます。

○緯度経度

最近では比較的容易に調べることができるので、今後はぜひ記録したい情報です。緯度経度が正確にわかると、数メートル程度の誤差で場所を伝えられるメリットがあり、時間がたってから以前生育していた植物を再び探す際にも大変役に立ちます。市販の地図から読み取ることもできますが、インターネットの地図サービス(国土地理院の地図閲覧サービス「ウオッチーズ」<http://watchizu.gsi.go.jp/> など)で調べると簡単です。また、携帯型GPS受信機やGPS機能付き携帯電話があると、採集時に直接今いる場所の緯度経度を調べることができます。

【「ウオッチーズ」を利用した、緯度経度の調べ方】

- 1) 「ウオッチーズ」の地図検索画面を使って、緯度経度を知りたい場所付近を地形図上に表示させます(図2)。

2) 知りたい場所付近の地形図が表示されたら、緯度経度を知りたい正確な場所(採集地)にマウスカーソルを移動させ、ダブルクリックをするとその場所が地図の中心となります(画面中央の黒い十字が地図の中心)。このとき地図の中心の緯度経度は画面左上に表示されています。

ウオッチーズの地形図表示画面では、インターネットアドレスの末尾が"meshcode=52397100"のようになっていますが、このmeshcodeの値は表示された地図中心のものとは限らないので、以下に説明する3次メッシュコードとしては利用できません。



図2.「ウオッチず」の画面表示例。

※緯度経度の情報を扱う上では、いくつか注意すべきことがあります。ひとつは、緯度経度の表記法です。「度、分、秒(ddd° mm' ss.s'')」で表わされている場合と「度(ddd.dddd, 小数点以下まで含む)」だけで表わされている場合があります。もう一つは「測地系」と呼ばれる地図測量の基準を統一する必要があります。これは、いわゆる世界測地系(最近の携帯GPS受信機やインターネット地図ではこちらがほとんど)に統一するのとよいのですが、平成13年以前の国土地理院発行の地形図(紙)や以下で説明する「3次メッシュコード」を記した「都道府県別メッシュマップ」には日本測地系(旧測地系)というものが使われています。これらを混同して使ってしまうと、数百メートルから数キロの違いが生じる可能性があります。採集記録として残したそれぞれの緯度経度について、何を使って調べたのか、ということを整理しておくといでしょう。また、含まれる数字を少し間違えただけで、全く異なった場所を示してしまう可能性があります。緯度経度は正しく使えば大変便利ですが、起こりうる間違いを修正するためにも住所表記と併用することが望ましいと思います。

○3次メッシュコード

地域メッシュと呼ばれる手法による位置の示し方で、地図を1辺の長さ約1km(正確には緯度差30秒、経度差45秒)の格子状の区画に区切り、それぞれの区画に割振られたコード(番号)で地図上の位置を表わす方法です。地図上の示したい位置が、どの区画に入るのかを8桁の数字で表わします。調べ方

は緯度経度から求める場合と、環境庁が刊行した「都道府県別メッシュマップ」を見て探す方法があります。「都道府県別メッシュマップ」は、一般財団法人自然環境研究センターから購入できます。緯度経度がわかる場合には、3次メッシュコードは不要です。

△調査区(調査メッシュ)

神奈川県植物誌の調査では、市民の手による地域の植物相調査のための工夫として、市町村単位かそれ以上に区切った地域を示す「調査区(調査メッシュ)」が使われてきました。神奈川県植物誌でおおよその調査区(調査メッシュ)を知ることができます。

△標高

国土地理院の地形図や、その他の市販の地図、インターネットの地図サービスなどを読み取って調べることができます。お奨めは国土地理院発行の地形図か前述の「ウオッチず」です。気圧高度計のほか、時計や携帯用GPS受信機や携帯電話の標高表示機能は計測の仕組みから誤差が大きいことが知られていますので注意が必要です(緯度経度が前述のように調べられる場合には、記録した緯度経度をもとに後から地形図などで調べた方が正確です)。

●「誰が」

採集者の氏名を書きます。採集者や同行者が複数いる場合は代表者何人かの氏名だけを書き、残りの方は「ほか」などと表記する場合があります。「いつ」「どこで」に比べると後々使われることは少ない情報ですが、採集記録に書かれていない情報を、採集者の方に尋ねる際に役に立ちます。

○「生育状況」

生育していた場所の環境や、株数、他の生きものとの関係、その他気づいたことなど、採集時に観察された上記以外の事実を書きます。

まとめ

「採集記録」として最低限必要なのは、『いつ、どこで、誰が、採集したのか?』ということ。後の世の人が探しに行ってみつけることができる情報。

(●:必須のもの, ○:あるとよいもの, △:その他.)

●「いつ(採集年月日)」

●「どこで(採集地)」

●「住所」

○「採集地の詳細」

○「緯度経度」

○「3次メッシュコード」

△「調査区(調査メッシュ)」

△「標高」

●「誰が(採集者氏名)」 (次ページに続く)

目次

久江信雄：イヌマムカゴの再発見.....	895
勝山輝男：ツユクサ属の外来種.....	896
大西 亘・村瀬ますみ：クロマツに着生したマツグミ.....	900
林 辰雄：アメリカオニアザミとマンテマを栄区で記録.....	900
奥津 均：サガミランの報告.....	901
勝山輝男：環境省第4次レッドリストの神奈川県関係の報告.....	901
大西 亘：植物誌調査の便利帳～第1回 採集記録はどうつける？～.....	903
事務局：次の植物誌へ向けての調査と調査メッシュの担当者.....	906
標本同定会兼勉強会と総会の案内.....	906

○「生育状況（周囲の環境や株数など）」

○「植物名（和名・学名）」

※ 今回の内容は事務局で相談してまとめました。このほかにも会員のみなさまのよく使う方法、便利な情報がありましたらぜひ教えてください。

次の植物誌へ向けての調査と調査メッシュの担当者

(事務局)

これまでのワーキングや総会において、次の植物誌へ向けての調査について、

- ①分布記録の追加は従来どおり継続
- ②場所を限った集中調査
- ③調査不足の地域

→県内全体での視点 (ex. 箱根・丹沢)
→ブロックでの視点
→特に調査したい地域 (ex. 海岸・里山・水田)

- ④調査の必要な分類群

ex. タケ・ササ、帰化植物、消失した可能性のある植物（ブタクサのようなもの）、RD 植物予備群（シカが好きな植物など）

※神奈川 RDB (2006) の改訂 (RDB と同様の手法による再確認調査)

などの話が出ております。

このうち、①については、従来通り、各自が調査を担当される調査区（調査メッシュ）での調査開始が可能かと思われます。事務局からは、各ブロックの事務局に皆様の希望調査区（調査メッシュ）アンケートの回答一覧を送付してありますので、各ブロックの事務局と連絡をとり、具体的な調査を進めていただければ、と思います。事務局では、ブロックごとの各調査区（調査メッシュ）のチェックリストの作成を準備しています。ブロックを通じて配布する予定ですので、ご活用ください。

標本同定会兼勉強会と総会の案内

植物誌の調査のための標本の同定会を兼ねて、分類の困難な分類群の勉強会をはじめています。Flora Kanagawa の発行が遅れ、ご案内の間が空いてしまいましたが、1月以降の予定は以下のとおりです。また、4月には総会が開催されます。

1月27日(土) 植物誌のための標本採集法

2月16日(土) タケ・ササ類の分類

3月10日(日) 未定

4月7日(日) 調査会総会

会場や資料の都合で参加人数を把握したいので、参加される方は前日までに電子メールで勝山宛 (katsu@nh.kanagawa-museum.jp) に連絡を入れてください。電子メールが使えない方は電話 (0465-21-1515) でも結構です。また、情報の伝達の省力化と情報の共有のためメーリング・リストへの登録をお願いします。事務局までご一報ください。

なお、Flora Kanagawa でご案内できなかった会も含め、勉強会の内容、対象分類群は以下のとおりです。

6月30日(土) ツメクサ属

7月16日(祝) サクラ属

9月23日(日) イヌタデ属

10月27日(土) カヤツリグサ属

11月17日(土) カエデ属

12月2日(日) ヤブマオ属

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000 円